

事業名称	狩猟の村 丹波山 移住推進事業 ～趣・職・住 総合パッケージ事業～								
事業開始年度	平成30年度（3年目）								
事業概要	首都圏を中心とした村外の狩猟・ジビエに興味を持つ住民に対し、狩猟（趣味）を楽しめる環境と、その狩猟によって捕獲できた野生獣を有効活用する仕事（職業）、ならびに村内にある、空き家を改装した住まい（住居）、の三つを用意し、移住につなげる事業である。								
KPI	当初	H30目標	H30実績	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績	合計目標	合計実績
村内就業先への新規雇用（移住）者数	0	1	2	1	1	1	3	4	6
有害鳥獣捕獲頭数	75	10	15	10	22	10	6	40	43
ジビエ処理・加工施設売上高	5,000	2,000	2,500	200	11,000	5,000	5,570	7,200	19,070
狩猟イベント参加人数	0	5	20	5	82	30	6	40	108
令和2年度ソフト事業						合計	15,882,000		
<p>【移住見込み者の発掘】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ イベント実施費用 198,000円 ■ イベント広報費 1,199,000円 <p>【村内インフラの整備と雇用の拡大関連費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 野生鳥獣有効活用にむけた新商品開発、販路拡大費用 3,487,000円 ■ 販売促進のためのWEB開発・販促費（SNS利用、リスティング等） 1,998,000円 ■ 加工場及び村内稼働スタッフ募集採用稼働委託費 9,000,000円 <p>1年目、2年目採用スタッフ並びに本年度新規採用者1名～2名の採用を実施、募集から採用稼働等に係る事務処理に至るまでの一連の業務を行う</p>									
令和2年度ハード事業					合計		12221095		
<p>【村内インフラの整備と雇用の拡大関連費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 囲い罟、センサー設置費用 471,095円 <p>【住宅関連費用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空き家改修費 老朽化した空き家の解体・新築住宅建設費 11,750,000円 									
事業効果					地方創生に非常に効果があった。				
外部有識者の評価・意見									
事業年度が最終を迎え、KPIの達成状況など地方創生に効果があったと確認できる。今後は、事業の自立に向け、事業者による運営を期待する。									

事業名称	村民の健康増進と定期来村者育成のためのヘルスケア推進計画								
事業開始年度	平成30年度（3年目）								
事業概要	心身ともに健康になる体験プログラムを構築し、村民の健康増進、医療費削減を目指すとともに、もう一方で都市で暮らす生活者がプログラム体験のために継続的に来村する機会を増やす。								
KPI	当初	H30目標	H30実績	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績	合計目標	合計実績
健康維持体験プログラムによる新たな来村者	0	300	342	600	689	1,200	175	2,100	1,206
ヘルスケア事業・体験に参加する企業数	0	5	5	10	11	20	3	35	19
二拠点居住者・移住者増加数	0	0	0	2	2	3	1	5	3
令和2年度ソフト事業					合計			7,000,000	
<p>【ヘルスケアビジネスを自立運営するための施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■体験談掲載のPRツール制作 800,000円 ■宿泊対応の人材育成 1,000,000円 ■体験プログラムの構築と健康関連製品開発 2,000,000円 ■市場調査、テストマーケティング・サンプリング 800,000円 <p>【ヘルスケア事業の自立へ営業活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■健康企業、団体のモニターツアー実施 400,000円 ■営業活動、運営業務を一般社団法人に委託 2,000,000円 									
令和2年度ハード事業					合計			なし	
なし									
事業効果	地方創生に効果があった。								
外部有識者の評価・意見									
事業年度が最終を迎え、KPIの達成状況については未達成であるが、地方創生に一定数効果があったことは確認できる。村内の高齢者は今後増加傾向にあり、健康への意識も年々強まっていることから、事業の継続による効果を期待している。									

事業名称	丹波山村をはじめとする7つの小さな村の首都圏拠点事業								
事業開始年度	令和元年度（2年目）								
事業概要	丹波山村からの出先窓口となる首都圏オフィスは大田区内につくる。「小さな村g7サミット」で連携している6村とも連携、リソースを補完しあう協働につなげる。近くに、羽田空港がある事から、日本の小さな村に興味をもつインバウンドの受入窓口、各村特産品の海外展開など商談窓口とする。								
KPI	当初	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	合計目標	合計実績
オフィスへの窓口相談数	0	30	15	80	26	80		190	
オフィスから生まれた丹波山村との協働事業数	0	3	5	8	10	8		19	
併設ショップ及び都内23区出張ショップでの購入客数	0	2,500	1,068	10,000	3,661	10,000		22,500	
併設ショップ及び都内23区出張での7つの村の特産品販売額（千円）	0	1,250	1,282	13,000	4,787	13,000		27,250	
令和2年度ソフト事業					合計		29,900,000		
<p>1、丹波山村ほか7つの小さな村の相談窓口・首都圏における拠点オフィス運営費 5,000千円</p> <p>2、併設ショップでの運営管理費 14,400千円</p> <p>3、東京23区内での丹波山村ほか7つの小さな村の情報発信費及び特産品販売の運営費 4,000千円</p> <p>4、都市住民と7つの小さな村住民とのコミュニティ組織構築のための準備費、運営費、広告宣伝費 1,500千円</p> <p>5、産官学NPOとの協働事業推進費 5,000千円</p>									
令和2年度ハード事業				合計			なし		
なし									
事業効果				地方創生に効果があった。					
外部有識者の評価・意見									
新型コロナウイルス感染症流行により、オフィスや併設ショップが入る商業施設自体が休業となり、利用客・売り上げが見込めないことは理解できる。最終年度は、新型コロナウイルス感染症流行の状況下でありながら事業の展開を期待する。									

事業名称	サウナ×災害対策 地方自治体向け災害時連携コミュニティシステムの確立と地域コミュニティ活性化事業								
事業開始年度	令和元年度（2年目）								
事業概要	フィンランド式テントサウナを利用した定期イベントを開催、並びに村内の温泉施設でのサウナコンテンツの強化を行い、丹波山村のサウナイメージを確立し交流人口の増加を図ると共に、イベント開催時に地域特産品の販売を実施し収益源の確保を行い、雇用の創造をはかる。災害時の防災対策としても活用し、他自治体へのシステムの導入についても案内を行								
KPI	当初	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	合計目標	合計実績
地域連携自治体数	0	0	0	1	0	3		4	
地域間災害時連携コミュニティシステム提案自治体数	0	0	1	6	2	12		18	
村外からのイベント参加者（交流人口）数（のべ人数）	0	0	710	1,000	250	1,500		2,550	
イベントでの地域特産品売り上げ（千円）	500	500	1,400	1,500	0	2,000		4,000	
令和2年度ソフト事業				合計			12,072,200		
<p>【交流人口UPに向けたイベントの開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント実施費用 3,200,000円 ・ 温泉施設ホームページ改修費 995,500円 ・ サウナコンテンツ導入コンサルティング費用 495,000円 ・ マーケティングデータ集計分析費 400,000円 ・ フィンランド式サウナリース費用 2,494,800円 <p>【イベントプロモーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WE B広報活動費用 3,491,400円 <p>【地域間災害時連携コミュニティシステム参画自治体の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体向けサービス案内代行費 995,500円 									
令和2年度ハード事業				合計			990,000		
<p>【自治体向けフィンランド式テントサウナ購入費】</p> <p>フィンランド式サウナ購入 3基 990,000円</p>									
事業効果	地方創生に効果があった。								
外部有識者の評価・意見									
新型コロナウイルス感染症流行により、村内におけるイベントが実施できず、参加者数・売り上げが見込めないことは理解できる。最終年度は、新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、事業を円滑に実施しKPI等数値達成に向けて取り組むことを期待する。									

事業名称	森の資源循環を活用した村内事業者育成事業～仮設住宅を「RE:ハウス」して雇用創出～								
事業開始年度	令和2年度（1年目）								
事業概要	村内の森林資源活用のために、村内の森林資源の6次産業化の推進、仮設儒歌を再利用したビレッジハウスの開発、村内の山林調査や森林育成のため事業の推進により、森林資源の循環を実現する。								
KPI	当初	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	R4目標	R4実績	合計目標	合計実績
雇用者数	0	1	1	1		3		7	
木材利用による製品開発数	0	1	1	2		2		5	
森林利用によるイベント参加者数	0	100	20	130		1,500		380	
丹波山村への移住者数	0	2	2	4		4		10	
令和2年度ソフト事業				合計			35,996,500		
<p>【森林資源循環事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の保全施業 5,000,000円 ・木材を原材料にする委託 3,000,000円 ・木材を利用した製品の調査開発 20,000,000円 ・森林をテーマとした広告活動、イベント 3,000,000円 <p>【移住者増加促進事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者募集費用 1,996,500円 ・家屋、土地調査、測量整備費 3,000,000円 									
令和2年度ハード事業				合計			なし		
なし									
事業効果				地方創生に効果があった。					
外部有識者の評価・意見									
事業で開発した商品が新聞等で取り上げられ、多くの注目があった。今後も事業を着実に進め、地方創生に効果をもたらすことを期待する。									

事業名称	新しい雇用の創出、高齢者を活用したウエルネス・ラボ拠点化事業								
事業開始年度	令和2年度（1年目）								
事業概要	来村する都市生活者に心身ともに癒される健康的田舎体験を村の高齢者が指導・提供していく。高齢者の雇用を創出することに繋がる。来村者が故郷に帰ったような心地よさから、将来への移住につながる活動を目指す事業である。								
KPI	当初	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	R4目標	R4実績	合計目標	合計実績
ウエルネス・ラボを利用する来村者数	0	50	55	250		300		600	
ウエルネス・ラボと連携する団体や行政、企業数	0	2	3	4		6		12	
二拠点居住者・移住者の増加数	0	0	0	1		3		4	
令和2年度ソフト事業				合計			6,000,000		
<p>【村の資源を活用した健康効果の検証】</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土食の健康分析 200,000円 原木舞茸のレシピ開発 900,000円 <p>【具体的な田舎体験プログラムの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムを企画・慣習 1,800,000円 <p>【高齢者・村民の健康意識醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナー講習、データ蓄積 1,100,000円 <p>【健康企業へのアプローチ】</p> <ul style="list-style-type: none"> HP制作 400,000円 コンシェルジュ紹介ツール 800,000円 企業団体向けプレゼンツ 800,000円 									
令和2年度ハード事業				合計			なし		
なし									
事業効果				地方創生に非常に効果があった。					
外部有識者の評価・意見									
KPIも順調に達成しており、翌年度以降の計画的な事業の展開を期待する。									

事業名称	地域資源を活用した「ファーム×マルシェ×グランピング」プロジェクト								
事業開始年度	令和2年度（1年目）								
事業概要	原木舞茸生産施設の改修と加工品開発、耕作放棄地の解消と丹波山版小規模循環型農業の実現、農業・食事・宿泊をテーマとした観光事業展開の3つを柱として、丹波山村の農林産物を活用し地域活性化を目指す。								
KPI	当初	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	R4目標	R4実績	合計目標	合計実績
農業に従事する移住者数	0	0	0	1		1			
農林産物および関連加工品売り上げ	500	0	0	1,800		2,200			
「農」×「食」×「泊」連携ソフト事業等の収入（千円）	0	0	0	500		1,000			
農業イベント、ファーマーズマルシェ、グランピング等の来場者数	50	0	0	10		120			
令和2年度ソフト事業				合計			16,296,270		
<p>【耕作放棄地解消と循環型農業の調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地・遊休農地調査 931,700円 農機具のリース 699,600円 循環型農業調査、研究 2,879,800円 <p>【農林水産物の新商品開発と、グランピング等のソフト事業準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品開発 1,100,000円 イベント調査費 2,246,970円 グランピングキットレンタル 1,500,000円 <p>【販路拡大、集客に向けてのマーケティングおよびPRと人材募集広告】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林産物ブランディング、市場調査、PRツール制作 3,690,500円 販売促進のためのWEB、SNS利用など 2,000,000円 広告宣伝費 447,700円 人材募集広告費 800,000円 									
令和2年度ハード事業				合計			17,957,335		
舞茸生産施設改修費（植菌室の改修）	11,005,500円								
殺菌窯等ホダ木生産のための機器購入	4,003,670円								
耕作放棄地整備費用	2,948,165円								
事業効果	地方創生に効果があった。								
外部有識者の評価・意見									
2年目以降のKPI達成に向けて、1年目の事業が効果的に次年度以降に繋がるよう事業を展開していくことを期待する。									

事業名称	村の中心地復活へ「丹波宿再生事業」								
事業開始年度	令和2年度（1年目）								
事業概要	村の中心地である丹波宿地区の再生のために、空き家を改修したコワーキングスペース等の利活用や、宿地区を中心とした村内の滞在型観光を推進する。								
KPI	当初	R2目標	R2実績	R3目標	R3実績	R4目標	R4実績	合計目標	合計実績
本事業により整備した施設の利用者数	0	0	0	80		600		680	
整備改修を行った施設数	0	0	0	2		1		3	
新たな雇用の確保数	0	0	0	3		3		6	
キャンペーンやPRイベント等の実施数	0	0	0	3		4		7	
令和2年度ソフト事業				合計			15,997,560		
<p>【丹波宿再生事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の有効利用調査研究協議会運営費用 1,000,000円 ・ 専門家講師招聘、先進地視察調査 1,000,000円 ・ 家屋調査委託 1,705,480円 ・ 宿場町文化の掘り起こし調査 2,000,000円 ・ 基本構想策定委託 3,292,080円 <p>【丹波宿プラットフォーム事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゾーニング巡回型システムの構築費用 3,000,000円 ・ 村内の他ゾーンのモデルコース調査 2,000,000円 ・ 管理等及び管理人の確保のための調査、研修 2,000,000円 									
令和2年度ハード事業				合計			5,552,730		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家改修のための設計費用 3,960,000円 ・ 巡回用電動アシスト自転車購入 1,592,730円 									
事業効果				地方創生に効果があった。					
外部有識者の評価・意見									
2年目以降のKPI達成に向けて、1年目の事業が効果的に次年度以降に繋がるよう事業を展開していくことを期待する。									